さんけん新聞

発　行
NPO法人
三段峡―太田川
流域研究会
（代表・本宮炎）

〒731－3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-3421-3046
◇
https://sanken-hiroshima.org/

2020年キーワード「深く根を張る」

事業定着 より効果を追求

団体や企業との連携が進んだ昨年、調査・保護・環境教育に取り組むさんけんの活動範囲は広がり、認知度は着実に上がった。2020年のキーワードは「深く根を張る」。本宮炎理事長は昨年を振り返り、今年を「これまでの事業の定着とより高い効果の追求」を目指す1年としている。

「三段峡の価値高め 発信」

本宮炎理事長

「組織力を蓄積する」を掲げた昨年は、さんけんの多様な事業内容が明確化された。専門家との協力によるゴマシジミなどの調査や団体・企業と連携した環境教育ツアーは着実に成果を上げ、「三段峡の価値を高める」事業となった。「あきおおたの楽しい100人」など安芸太田町内への取り組みも充実した。さんけん会員（正・賛助）は百人を超えた。支援に感謝する。

今年のキーワードは「深く根を張る」。これまで取り組んだ事業を定着させ、より高い効果が得られるよう深化させたい。連携した団体・企業との関係強化と事業の発展、帝釈峡とのコラボによる名勝の価値の発信を目指したい。安芸太田町のガイド育成年間計画の策定やエコツーリズム推進法の認定取得に対して働き掛ける。

2020年の主な事業計画

環境調査・保全事業の実施

ゴマシジミの保全計画やオオサンショウウオ調査など、各種の助成金を活用した環境調査・保全活動事業を実施する。各会員の研究事業も継続し、教育や啓発、PR用資料として活用できる状態を目指す。

団体・企業との連携ツアー

無印良品広島と協業してツアー販売を継続、さんけん単独の販売も開始する。西中国山地国定公園指定50周年記念ツアーを広島山岳会などと開催。広島大学中坪ゼミとのネイチャートレイル事業を継続する。

太田川流域の人材育成研修

太田川流域ジュニアリーダー研修に加え、東京海上日動との協働による環境教育型自然体験塾をスタートする。町内の中高生による外国語学習を兼ねたボランティアガイドの可能性を探る。

「里山グッドアワード」人気投票

三段峡野外博物館 快走中

新しい価値の創造に取り組む活動を表彰する「ひろしま里山グッドアワード」（県主催）の人気投票で「三段峡野外博物館」が快走中。2月21日締め切り。ぜひ1票と投票呼び掛けを。投票は https://hirosatoaward.jp/voting

南峰と歩く ㉙ 大淵（おおぶち）

苔むす岩壁 鬱蒼と生える樹々

仏岩から鉦ケ瀬沿いに上流へ進み、蛇杉橋、南峰橋を渡ると、程なくして大淵に着く。山桜と欅の大木がある岩頭に立って、淵をのぞくのが普通だが、下流側の水際からの景色がもっと良い。苔むした複雑な節理の岩壁に鬱蒼と生える樹々、淵に落ち込む奔流が心地よい。但し、降りる際は浮石に十分な注意が必要である。

■鰻や鴛鴦　今は昔

熊南峰は、「昔は溺死者の多いので恐れられた魔所であったが、今は鰻がよく釣れるので人に喜ばれるように変わってきた。毎年寒くなりかけると、何処からともなく夥しく鴛鴦が集まって来るが、翌年暖かくなりかけるとまた去ってしまう」と記している。現在は両者ともほとんどいない。

鴛鴦（オシドリ）は冬季、正面口下流の柴木川ダムで群れているのが見られる。

■石の椅子で一休み

探勝路沿いにはコンクリート製の「大淵休憩所」があり、足を休めたり、急な雨をしのげたり出来る。それとは別に休憩所の前には天然石のベンチとテーブルがある。

峡谷内各所に見られるこれらは、大正期の設備計画にある。計画書は「三段峡保勝会」名で書かれているが、南峰によるとされる。見つけたら先を急がず座ろう。風や音、移ろう季節に触れ、南峰の想いや歴史を感じてほしい。（松尾　俊孝）

一口メモ

▼超暖冬

積雪のない正月を迎えた。三段峡はこの時期、雪崩や落石があり、まず普通には歩けない。冬に入峡できるのは嬉しくもあるが、気候変動の懸念も大きい。木々は固い新芽を付けて春を待ち、秋に落ちた木の実は発芽する準備をしている。温かい冬が彼らの春にどのように影響するのか。

良品計画　空き家活用策探る

良品計画ソーシャルグッド事業部の林巧担当課長ら四人が十二月六日、安芸太田町内の空き家を視察した。町地域づくり課が無印ブランドを活用した空き家リフォームを依頼、さんけんが橋渡し役になって実現した。

役場職員四人と加計地区の空き家を見た後、事業プランを話し合った。林課長は「自治体からこのようなオファーは初めて。出来るだけ協力したい」と述べた。

町は今後増え続ける空き家を資源と位置付け、定住対策の柱とするため、活用方法を探っている。

鳥を見るツアー　旅鳥など八種観察

鳥を見るツアーが十二月二十一日、小学生を含め十一人が参加して深入山山麓と芸北・千町原で開かれた。講師はさんけん会員であり、西中国山地自然史研究会の上野吉雄さん。

深入山ではオオアカゲラやキレンジャクとヒレンジャクの混群を確認し、芸北では、旅鳥のシラガホオジロや紅色のオオマシコを観察した。この日確認できたのは八種類。小学二年生は「初めてじっくり鳥を見た。自分の図鑑が欲しい」と話していた。

この人

人に惚れ柴木へ移住

松平　貴佳さん

9年前のしわいマラソンにボランティアで協力した際、同年代の人が奮闘している姿を見て、仲間になりたいと思ったのがきっかけで、安芸太田町柴木へ移住した。

警備会社勤務の経験を活かし、三段峡のイベントでは駐車場の責任者を務める。「安芸太田の魅力は人。距離感が近く、ズカズカと人の心へ入って来る人たちが多いが、逆にそれがいい」と話す。海外の人にも、町民にも三段峡の魅力を味わってほしいと願っている。「観光と環境保全とのバランスがとれるよう、さんけんの活動に期待している」。（炎）